

帯広畜産大学 長澤秀行 学長

ながさわ ひでゆき

まず、学長さんの
経歴について教えてください。

実は私、最初は工学部を目指していたんですよ。でも、子供の頃読んでいた凶鑑や、浪人中に読み漁った「シートン動物記」や「ビクとるマンボウ昆虫記」の影響で、浪人中に獣医になることを決意しました。初めは獣医になる気はなかったんですよ(笑)。その後一浪して帯広畜産大学産学部獣学部に入学しました。卒業後は帯広畜産大学大

大学生にどんな学生生活を
送ってほしいですか？

もちろん、青春してほしいね(笑)。部活動に全力を尽くすもよし、勉強を必死でするもよし。ただ、何事も積極的に動いて欲しいです。大学に入学して、講義を受けて、卒業するだけではもったいない。学生時代こそ、いろんなことができるし、可能性がある。黙っているだけではチャンスは巡って来ないから、積極的に動くよね、たとえ失敗したとしても得るものは必ずあるんですよ。大学の授業だけでは得られないものが得られる。興味を持って挑戦することで自分の得意分野や好きなことが発見できる。そして人と関わりを持つということ。学べることは沢山あります。だから大学生には、積極的に外に出て学ぼうとする姿勢を大切に、有意義な学生生活を送ってほしいですね。

帯広畜産大学では、「実学」を重視していると
お伺いしましたが？

農学は、学術的知識と実践学習の両方があって初めて意味のある学問な

学院で獣医学修士を取得し、徳島大学大学院医学研究科博士課程を修了しました。
獣医ではなく、獣医学博士になられたということですか？

そういうことですね。もともとは馬が大好きで、大動物の獣医になりたかったのですが、馬と触れ合うアルバイトをしていたところに、自分の本当にやりたいことは一匹でも多くの動物を助けることなのだと感じました。実際、状況によっては、獣医は動物の命を見捨てることも必要になってきますからね。それは自分の目指していた道とは違うと感じました。そこで、獣医と

いう道ではなく研究者になり、ウクチンの開発をすることで一匹でも多くの動物を助けようと考えました。なので、実際に獣医として働いたことはないですよ。

学長さんは現役ラグーマンだとお伺いしましたが、大学時代もラグビーをされていたのですか？

もちろんです。実はラグビーに出会ったのは大学時代なんです。実は僕、高校時代は空手をやっていて、茶帯だったんですよ！だけど、大学に入ってから、空手部より先にラグビー部に勧誘されてしまった(笑)。空手部に入れば部長になれたんですけどね、もう最初

はラグビー部に騙されたって感じでした(笑)。それからもうずっと、ラグビーをしています。
ラグビーに
夢中だったのですね！

そうですね。ラグビーは前にパスしてはいけません。パスするときは、必ず後ろにしなければなりません。紳士的なスポーツだからね。だから、なかなか前には進まないんだよね。けれど、ぶつかりながら、血だらけになりながら、必死にゴールを目指してパスをしながらか前進する。周りを囲まれた時は仲間たちが助けてくれるんだよね。そんなラグビーから助け合いの精神、協調性、仲間の大切さを学びました。ラグビーは、青春のすべてですね。



という地は「実学」を行うに素晴らしい環境です。できるだけ実学重視のカリキュラムを取り入れていきたいと考えています。

それでは最後に、学長さんの
将来の夢を教えてください。

私の夢ですか？・・・そうだな、「ラグビー、生涯現役」ですかね(笑)。
(担当：杉山晴香)



んですよ。だから、本学では「実学」を重視したカリキュラムを取り込んでいます。例えば、過去にJICA(国際協力機構)のプログラムを利用して学生を1ヶ月間フィリピンの農家さんにホームステイさせるというカリキュラムを実施したことがあります。実は、本学は日本で最初にJICAと提携を結んだ大学なんですよ。そのカリキュラムでは、1ヶ月間農家さんと一緒に寝泊まりをすることで畜産を学びつつ、大学で学んだ知識を農家さんに教えてあげる。実際に現地の状況や問題点を肌で感じることで、その後の学習は大きく変わってきます。有意義な4年間を過ごすことができます。それに帯広

